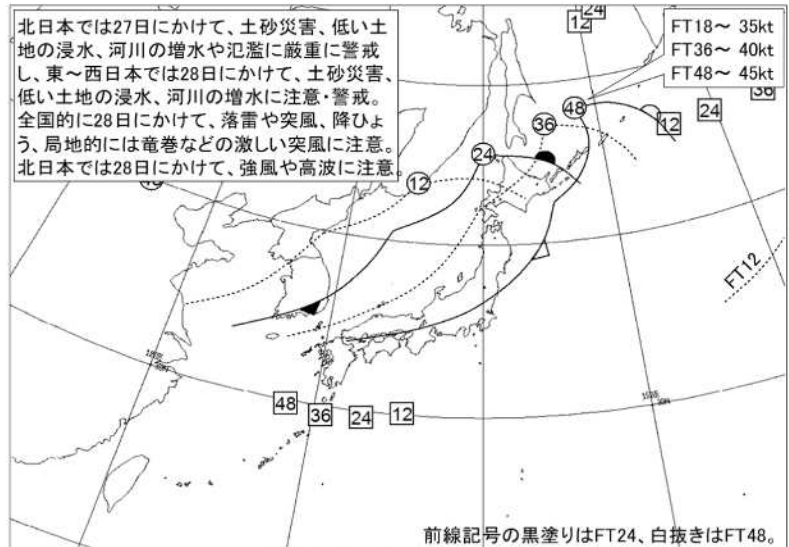


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5940m付近の上空の高気圧が本州付近に停滞。地上では、高気圧が日本の南を西へ移動。高気圧縁辺を回る下層暖湿気の影響で、北陸西部～東海地方では非常に激しい雨を解析し、雷を検知。
- ② 500hPa 5820m付近で-9℃以下の寒気を伴うトラフに対応して、華北～日本海にのびる前線上の沿海州付近と朝鮮半島付近を、低気圧が東北東進。低気圧近傍では、雷を多数検知。
- ③ 台湾海峡付近をゆっくり西進する上層寒冷低気圧（UCL）と①の高気圧縁辺を回る下層暖湿気の影響で、南西諸島では非常に激しい雨を解析、雷を検知。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の上空の高気圧は、27日にかけて日本のはるか東に中心を移す。また、28日は、別の上空の高気圧が黄海付近から本州付近に張り出す。地上では、日本の南の高気圧は、27日にかけて東シナ海に中心を移し、その後停滞。東北地方では27日にかけて、西～東日本では28日にかけて、晴れて気温が上昇し、猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。
- ② 1項②のトラフは、26日は沿海州付近に進み、27～28日にかけて北日本を通過する。1項②の朝鮮半島付近の低気圧は、26日朝までに不明瞭になり、沿海州付近の低気圧は発達しながら、26日は宗谷海峡付近に、27～28日はオホーツク海から千島の東に進む。これに伴い、26日は温暖前線が北海道地方を北上、27日は寒冷前線が日本海から本州付近を南下する。低気圧の周辺では、気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹いて、波が高くなりしける所がある。北日本では、強風や高波に注意。
- ③ 2項②の前線や低気圧が通過する地域では、前線や低気圧に向かう下層暖湿気や上空寒気の影響で、2項①の高気圧の圏内では日中の昇温や高気圧縁辺を回る下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。北日本では27日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒し、東～西日本では28日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。また、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ④ 1項③のUCLは、27日にかけてゆっくり華南付近に進む。また、28日は別のUCLが日本の南から大東島地方に接近する。上空寒気と2項①の高気圧縁辺を回る下層暖湿気の影響で、南西諸島では28日にかけて、大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、短時間強雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：北海道180、東北・東海・九州北部100mm。
- ② 波浪(明日まで)：北海道3m。③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。北～西日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雨と雷及び突風に関する全般気象情報」を5時頃発表予定。